

2021/5/12-2

(うと Q 世話し この世は将に、ままならず)

以下は全て推論です。

「お金は使わなくては (お金は) 入ってこない」

という記事を前回書きましたら、物書き事のお師匠様から

「我が国民の貯蓄体質は明治時代の富国強兵という国策の名残だろう」

という趣旨のメッセージを戴きました。

で、その時は自分でも分っていた積りになったのですが、よく考えて見たら

「なんで、貯金が富国強兵に役立つのだけ？」

と疑問が湧きました (詰まり自分は余りよく分っていなかったのです)

で、考えて見た処

「国債」

を思いつきました。

詰まり、貯金を推奨する。貯まった処で無理矢理国民に国債を買わせて戦費を調達する。

しかし、国債と言うのは国民が債権者で国が債務者ですから、いずれ国は償還という形で、借金に利子を付けて国民に返さなくてはなりません。

ところが、そこに敗戦。

国があるやらないやら、はっきりしない状態の上に、戦後のデノミで新円に切上がってしまった。最低金額一厘が 1 円に切上がったと言う事は、逆に言うと 10000 円が 1000 分の 1 の 10 円 (の額面価値) になってしまった訳です。

国債を持っていたら大損です。

で、戦後はそれに懲りた国民は、今度は銀行に預ける様になった。

折しも戦後の朝鮮戦争特需や、その後の高度経済成長で銀行は企業に、国民が預けたお金をどんどん融資し、たんまり儲けた。そのお裾分けで国民も年率 7% 位 (確か自分が中学生の頃、そんな記憶があります) の利息を得る事が出来た。

1000 万預けたら 70 万円。1 億なら 700 万円。10 億なら、なんと 1 年で 7000 万円の利息が付く訳です。貯金すればする程、遊んで暮らせる。

ウハウハです。

しかし、是では預貯金は企業の融資には回りますが、国民の購買量は上がりなくなります。

是ではこの先企業もヤバイ、と思って、今度お国が言い出したのが「消費は美德」の宣伝。

それで再び経済は伸び始めましたが、今度は環境汚染やら公害やらの副産物が。

で、そうこうするうちに過熱気味の経済 (実体経済より金融経済) のバブルがはじけ、その後「失われた 30 年」が始まりました。

最近では、更にマイナス金利というもの迄。

要するに銀行に 100 万円のお金を預けておくと、1 年後には増えるどころか 99 万円になって目減りする政策です。

意図は、貯めておいても仕方が無いので「投資に回そう」という気持ちを起こさせ、お金の流れを良くしようとした訳です。

ところが、是又々、その預金が引き出されて行った先は、実体経済ではなく株式や商品相場へ。

早い話、是が格差の元でしょう。

詰まり、お金持ちが株式や商品に投資をして益々儲ける反面、お金のない、又投資概念の希薄な「庶民」は単に預金が目減っただけ。

で、仕方なく窮余の一策として「タンス預金」が増える。

それが「今」

それにしても物事は思う様にならないものです。

「つんだ」と思ったら必ず抜け道を見つけて、あらぬ方向にすり抜けていく。

「この世は将に、ままならず」の様です。